

和泉新聞

九頭竜湖に来訪

事前に打ち合わせた結果、今月の十二月二日、私たち四人が実地取材に九頭竜湖へ行った。

地元の人にとつて、九頭竜湖は紅葉を見にくるところだけではなく、自然が好きなお人にとつて、とても良いところだ。カヌーや散策や山登りなどができ、特に毎年開催されている釣大会は鮎を取れる。自然愛好者はぜひ九頭竜湖の魅力を見に来てください。

初冬の歩行者

朝9時頃福井大の駅前に集合し、それから弓越美北線に乗って約2時間くらいかかって福井県の最東端にあり自然に囲まれた終着駅「九頭竜湖駅」に到着した。

駅に降りて、係員さんから聞いてもらった情報によると、和泉市に位置する九頭竜湖周辺には九頭竜湖を除き、化石博物館やスキー場など、ほかにもいろいろな観光スポットがあるが、不幸にも来る時期が大変悪かったため、運転手さんがいない状況でタクシーに乗りにくくても乗りようがなかった。

そこで周辺地域を全部見回りするのはさすがに無理だとわかった私たちは徒歩で九頭竜湖まで行くに決めた。

旅行には体力

駅から九頭竜湖までは総計7キロ、歩いていくと相当な道のりであるが、（歩）くだけで往復3時間もかかるので、体力に自信のある方しかすすめない。実は歩いて道すがら様々な景色が堪能できる。



=12月、九頭竜湖周りの穴馬総社（ジャオ撮影）

閑散期の旅

紅葉狩りの時期ではなくて少々残念だったが、九頭竜湖の水を触ったり飲んだりすることができてもう満足だと思っている。透き通るような水が広がっている美しい湖となつていて、この景色を実際に目に収めると心にもゆとりが生まれてくるものだろう。

途中の鷲ダムで撮った写真も、光の反射からきれいな景色を演出してくれる。いいタイミングだと野生の猿と熊に遭遇することもあった。聞いていたが、幸か不幸か、私たちには会えなかった。

住民を直撃

九頭竜湖周辺に6年間住んでいる案内所スタッフ林浩司さんと、そこで55年以上暮らしている駅係員の表秀信さんに取材しました。

九頭竜湖周辺が日本には数少ない豪雪地帯なので、雪は福井市内より早めに降り、降雪量も多い。さらにダム建設のために、人口移動して、地元の人が少ないなっている。

観光地といえば、やはり九頭竜湖が一番有名だ。また、ダムと夢の架け橋も人気がある。紅葉が綺麗だから、秋の時は観光客が一番多い。紅葉の他にも、植物化石と恐竜化石が豊富で、

自然とのふれあい

全国中でも珍しい資源と言え。昔はスキーに行く人がたくさんいたが、今の若者はあまりスキーをしな

地元の人として、観光のおすすめは、自然を楽しむことだ。ここには山は緑に水は清い、景色が清らかで美しい、カヌーや散歩や山登りなどができる。山の恵み―山菜が自由に取れる。魚釣りもでき、毎年バス釣大会が開催されている。ここで年二回の祭りがあり、五月の新緑祭りと九月の紅葉祭りだ。また、冬の間は真っ白になり、とても素晴らしい、不思議な光景がある。



=12月、大野市朝日26丁目（リン撮影）

豆知識

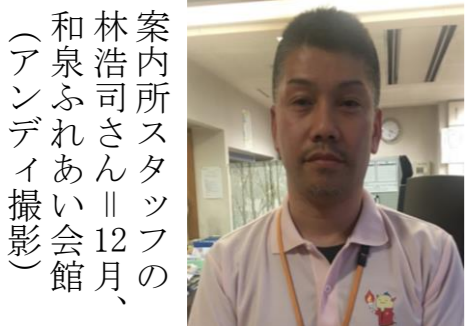
自然湖？人造湖？

九頭竜湖は、岩を積み上げたロックフィル式ダムの建設によってできた人造湖である。

九頭竜ダムによって九頭竜川がせき止められてできた広大な人造湖は豊かな自然に囲まれ四季折々の美しさを見せてくれる。

九頭竜ダムの完成によって誕生した九頭竜湖は面積890ヘクタールと、日本全国有数の広さを持つ。春は「万本桜」、秋は紅葉が美しい。湖に架けられた箱ヶ瀬橋（福井県道230号大谷秋生大野線）は瀬戸大橋の試作として建設された吊り橋で、愛称を夢の架け橋という。上流には堆砂対策として建設された貯砂ダムがあり、そのダム湖の名は蝶の湖（ちようのみずうみ）という。

和泉村の小学生の投票によって決まったもので、九頭竜川上流の清流が「蝶の水」と呼ばれていることに由来する。周辺にはキャンプ場や散策路などが整備されている。



案内所スタッフの林浩司さん（アンディ撮影）



駅係員の表秀信さん（ジャオ撮影）



=12月、九頭竜ダム（ジャオ撮影）

この紙面は私たちが企画、取材、執筆しました
教育学部特別聴講生 アンディ・キキス
教育学部特別聴講生 リン イーチュン
教育学部特別聴講生 ジャオ ルウシヨイ
教育学部特別聴講生 シャオ ドウオ